

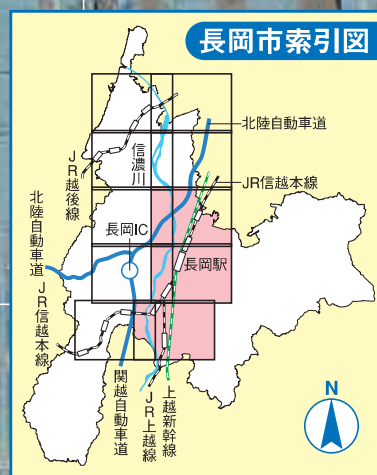
長岡市洪水避難地図

～普段からいざという時に備えましょう～

洪水ハザードマップ

南東部版

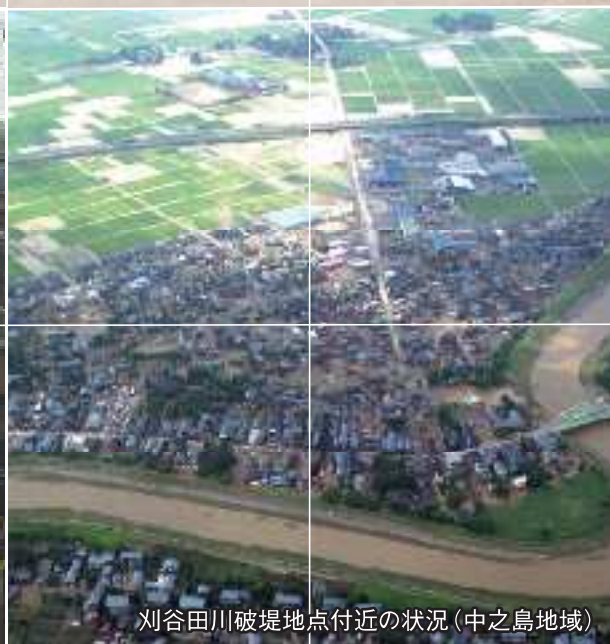
保存版



自衛隊による救助活動(新組地区)



住宅地の浸水被害の様子(中之島地域)



刈谷田川破堤地点付近の状況(中之島地域)



長岡市

平成20年4月

目次

洪水避難地図

信濃川	P3～ P8
刈谷田川	P9～P10
猿橋川	P11～P14
太田川	P15～P20
稲葉川	P21～P24
栖吉川	P25～P26
柿川	P27～P28
浄土川	P29～P32

災害の備え

全市民が防災要員	P33
もしも集中豪雨や洪水が起こったら	P34

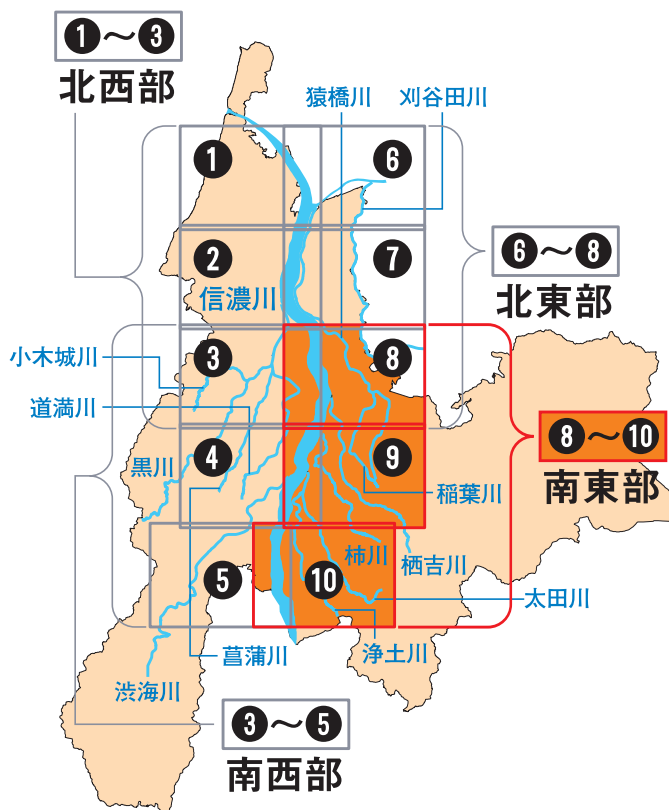
避難情報の発表

避難情報等の伝達方法	P35
豪雨災害への早めの備え	P36

災害が起きたら

防災関連情報	P37
避難の心得について	P38

索引図



長岡市洪水避難地図は、4つの地区で作成しています。配布した地区の他、希望する地区がありましたら、危機管理防災本部までご連絡ください。

①～⑩以外の地区（長岡地域の東部・西部、山古志地域、小国地域、寺泊地域の北部、栃尾地域）の洪水シミュレーションはありません。

このマップを作成した目的 普段からいざという時に備えましょう

- このハザードマップは、**信濃川**または**刈谷田川**、**猿橋川**、**太田川**、**稲葉川**、**栖吉川**、**柿川**、**浄土川**が大雨により万一はらんした場合に、皆さんがお住まいの地域がどの程度浸水するおそれがあるのかをお知らせするものです。
- これにより、水害時に避難する際に様々なかたちで皆さんの被害の軽減に役立てていただきたいと思います。
- さらに、このマップを使って、平日頃からご家庭や地域で、いざという時に備えて、避難施設までの経路や持ち出し品などについて事前に話し合い、考えていただきたいと思います。

使用上の注意 マップの表示より深くなる場合もあります

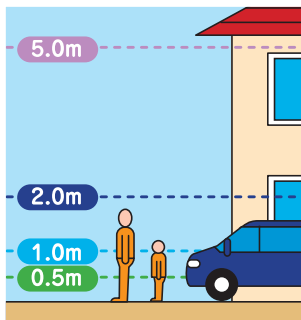
- このハザードマップは、信濃川は国土交通省、その他河川は新潟県の洪水シミュレーション結果に基づいて作成していますが、それぞれの河川ごとに対象の降雨規模が異なります。
- 短時間での激しい降雨や幾日にもわたる多量の雨など、雨の降り方は複雑であるため、想定とは異なる浸水深となったり、浸水が想定されていない区域でも浸水したりする可能性があります。
- また、川がはらんしない場合でも、低い土地などでは床上・床下浸水等の被害が起こる場合がありますので、十分ご注意ください。

凡例

浸水深の見方

大雨で河川がはらんした時に予想される水深を色別で表しています。水深の目安はおよそ次の通りです。

色	浸水深	水深の目安
紫	5.0m以上	3階以上つかかる程度
青	2.0～5.0m	2階の窓の上までつかかる程度
水色	1.0～2.0m	1階の窓の上までつかかる程度
黄緑	0.5～1.0m	おとなの腰までつかかる程度(床上浸水)
黄	0～0.5m	おとなの膝までつかかる程度(床下浸水)



施設・主要幹線道路

- 主要公共施設
- 🏠 地区防災センター
- 🚑 救護病院
- ♿ 要援護者施設
- 鉄道
- 主要幹線道路

危険経路(洪水時通行不可)

- 橋(信濃川)
- ガード・地下通路及び地下施設

避難施設

- ⑫③ 利用できる避難施設
- ⑫③ 洪水時には浸水深により利用できない避難施設

避難方向

➡ 矢印の方向へ避難しましょう

緊急避難地域

この地域は、河川がはらんした時には、水の勢いが強く危険である事と、短時間での浸水が予想されますので、早めに避難の準備をお願いします。

避難ブロック界

洪水時に橋を渡ることは大変危険なため、橋を渡らずに避難しましょう。河川で分類される避難ブロック(A～S)を避難の基本的な範囲とします。

土砂災害危険箇所

- 土石流
 - がけ崩れ
 - 地すべり
- 土砂災害危険箇所は新潟県が作成した『土砂災害危険区域図』をもとに表記されています。

はらん対象河川

浸水想定区域の対象となる河川

7.13水害時の浸水範囲

平成16年7月13日新潟・福島豪雨災害による浸水区域

その他

- 市町村界

避難施設の判定基準

浸水時に利用できる避難施設は河川ごとに異なります

●浸水時の考え方

色	浸水深	判定	
		鉄筋コンクリート構造	木造構造
紫	5.0m以上	利用不可能	利用不可能
青	2.0～5.0m	3階以上は利用可能	利用不可能
水色	1.0～2.0m	2階以上は利用可能	利用不可能
黄緑	0.5～1.0m	2階以上は利用可能	2階以上は利用可能
黄	0～0.5m	利用可能	利用可能

● 早めの避難準備が必要な緊急避難地域(赤線で表示:信濃川は河川より300m～1.4km、その他の対象河川は300m以内)を設定しています。緊急避難地域にある木造構造の施設は、利用できません。地域内であっても、鉄筋コンクリート構造等の堅固な施設は利用できます。

● 土砂災害危険箇所(青・オレンジ・赤色の破線枠で表示)内にある施設については、鉄筋コンクリート構造等の堅固な施設の2階以上は利用できます。それ以外の施設は利用できません。